



## 水しぶきをあげて 元気な夏



7月25日～28日、順正苑でのワークキャンプに参加しました、と会田さん

事実、このような老人は少な  
いでしょう。また、これから高齢化  
社会が広がってゆく中で、このよ  
うな人たちも確実に増えていくこと  
でしょう。だからこそ、身近な問題と  
して、多くの人にも考えてもらいた  
いことからではないでしょうか。

居老人宅を訪問するということでした。  
社会の周囲からの目に見えない  
あたたかさを知ることができ、反面、  
社会の思われ冷たい一面をもかいま  
でしまうが、老人ホームに入つてお  
見だ感じがしました。それは、核家  
族化が進んでいた現代社会において  
こういう方がとも増えてきているの  
であります。老人ホームに入つてお

例年なく暑い夏。「しらこばと水上公園」では、連日多くの子どもたちや家族づれにぎわい、真っ黒に日焼けしたチビッ子たちの歓声があちこちから聞こえます。海なし県埼玉の「海」として、昭和54年に誕生したこの水上公園も、上尾の「さいたま水上公園」と合わせて、この7月末で来場者数が1,000万人を突破しました。水上公園プールは9月9日まで、北越谷駅西口から臨時直通バス運行中。

## 越谷とわたし

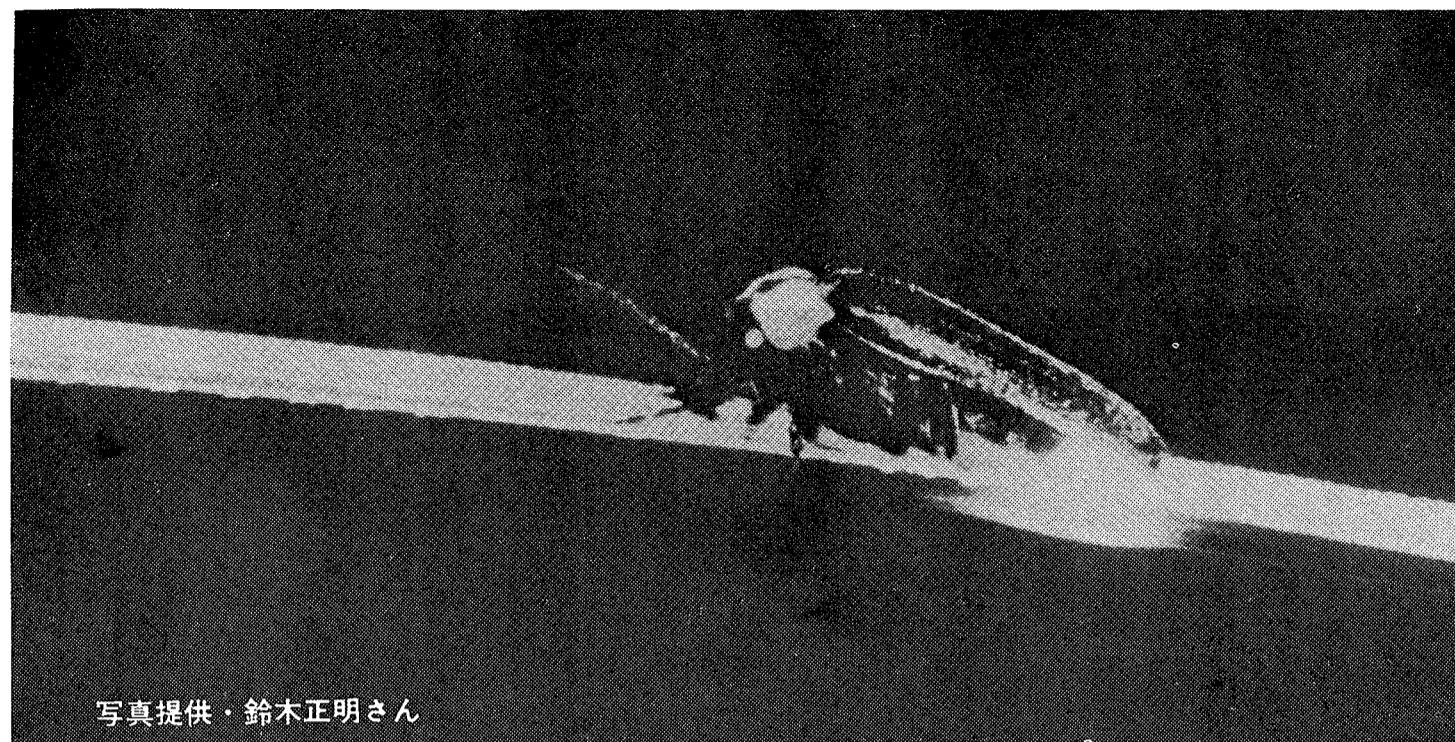
145 ◇

「越谷とわたし」は、あなたのコーナーです。みなさんの投稿をお待ちしています。字数は900字程度です。広報広聴課

越ヶ谷本町11の11  
会田 健三 (16歳)

会田 健三 (16歳)

市の人口	
(昭和59年8月1日) 総人口 男女 世帯数	24万5739人 12万3965人 12万1774人 7万4593世帯
現在住民基本台帳 前月比	290人増 135人増 155人増 20世帯増



写真提供・鈴木正明さん

## ホタル豆知識

ホタルというと、ゲンジボタルとハイケボタルを思い浮かべる方が多いと思います。しかし生物分類学上は、日本でも30数種、世界全体では2000種前後が含まれる大きなグループです。おおまかにみれば、カブトムシやクワガタムシが含まれる鞘翅目(ショウシムシ)とよばれる仲間です。ホタルといえば全部光るものと思っている人が多いと思いますが、日本産のなかで光るのはせいぜい数種、ほかは実に地味なグループです。光るホタルの中でも特に有名なのが、ゲンジボタルとハイケボタルで幼虫時代を水の中で過ごします。

### <ゲンジボタル>

ゲンジボタルはハイケボタルと比べると体が大きく、光も強く、またすむ所が清流なので昔から珍重されてきました。ホタルの名所として有名な所は、ほとんどがゲンジボタルの発生地です。きれいな流れとホタル、浴衣かけにうちわをもっての夕涼み、なんと日本の風情でしょう。

### <ハイケボタル>

ハイケボタルは、体が小さく光もそれほど強くありません。またゲンジボタルよりも流れのゆったりした所を好みので、用水路や水田の中に発生します。里のホタルといえるでしょう。周囲の環境から考えると、越谷市に生息していた(している)ホタルは、このハイケボタルだと考えられます。

### <ハイケボタルの一生>

ハイケボタルは、6~8月(越谷市では7月中、下旬)に発生します。体長は雄で8ミリ、雌で10ミリ。体は黒色、前胸背が淡赤色で中央に太く黒い縦条があります。发光器は雄で第6、7腹節、雌では第6腹節であり淡黄色です。成虫の寿命は3~10日間、日中は草の根などに潜み、日没後飛びまわり発光します。雌は不活発で草や木の葉上で明滅することが多いようですが、雄は活発に飛びまわり雌をみつけると近づいて明滅を繰り返します。この明滅する光に誘われて交尾行動が触発され地面や草地で交尾します。交尾後雌は水田の用水路の水際などに生える草やこけなどに約100個ほど産卵します。

卵は0.6ミリ前後、乳白色球状で、約1カ月ぐらいでふ化します。ふ化幼虫は体長1.5ミリから2.0ミリで、水田やその用水路にすみ、10月ごろまで4回脱皮して20ミリぐらいで成長します。冬の間はあまり活発に活動しませんが、5月ごろ川岸にはい上がり、土の中に潜ってまゆを作り、ここで幼虫はサナギになります。その後約30日で羽化し土からはい上り地上に出てきます。

ホタルのすめる環境づくりを  
—越谷市は豊かでうるおいのある  
まちづくりの一環としてホタルのす  
める越谷市をめざし、市民にホタルの  
幼虫を飼育してもらいたいこれを放流  
する計画を立てました。

ではなぜ、ホタルを殖やすのでし  
ょか。ホタルはヒスマラガイ、カワ

ホタルを  
復活させよう

ホタルを

暗やみに光の軌跡をえがいて乱舞するホタルは、見る者を夢幻の世界へ誘います。昔は田んぼのあぜなどにたくさんいたといわれるホタルも、今の越谷にはめったに見られません。「越谷にホタルを復活させよう」「ホタルのすめる環境づくりを」——越谷にホタルをよみがえらせる計画がスタートしました。

二チ、ヒスマラガイなどの貝類を食べて育ちます。その貝類はプランクトンや有機物を食べて育ちます。一方ホタルの幼虫はフナやコイなどの魚類に食べられます。そして魚類の死体はプランクトンや貝類のえさになります。このように自然界の循環が生まれ、えさの貝類が農業などによって減りつけたため、今はまだ自然状態での定着をめざしてほしい珍しい昆虫となっていました。

越谷市でも以前はたくさんのホタルが発生していましたが、最近ではその姿を見かけないままであります。越谷市でも以前はたくさんのホタルが発生したといわれていますが、最近ではその姿を見かけないままであります。

ホタルを

二チ、ヒスマラガイなどの貝類を食べて育ちます。その貝類はプランクトンや有機物を食べて育ちます。一方ホタルの幼虫はフナやコイなどの魚類に食べられます。そして魚類の死体はプランクトンや貝類のえさになります。このように自然界の循環が生まれ、えさの貝類が農業などによって減りつけたため、今はまだ自然状態での定着をめざしてほしい珍しい昆虫となっていました。

越谷市でも以前はたくさんのホタルが発生していましたが、最近ではその姿を見かけないままであります。越谷市でも以前はたくさんのホタルが発生したといわれていますが、最近ではその姿を見かけないままであります。

ホタルを

二チ、ヒスマラガイなどの貝類を食べて育ちます。その貝類はプランクトンや有機物を食べて育ちます。一方ホタルの幼虫はフナやコイなどの魚類に食べられます。そして魚類の死体はプランクトンや貝類のえさになります。このように自然界の循環が生まれ、えさの貝類が農業などによって減りつけたため、今はまだ自然状態での定着をめざしてほしい珍しい昆虫となっています。

越谷市でも以前はたくさんのホタルが発生していましたが、最近ではその姿を見かけないままであります。越谷市でも以前はたくさんのホタルが発生したといわれていますが、最近ではその姿を見かけないままであります。

ホタルを

二チ、ヒスマラガイなどの貝類を食べて育ちます。その貝類はプランクトンや有機物を食べて育ちます。一方ホタルの幼虫はフナやコイなどの魚類に食べられます。そして魚類の死体はプランクトンや貝類のえさになります。このように自然界の循環が生まれ、えさの貝類が農業などによって減りつけたため、今はまだ自然状態での定着をめざしてほしい珍しい昆虫となっています。

越谷市でも以前はたくさんのホタルが発生していましたが、最近ではその姿を見かけないままであります。越谷市でも以前はたくさんのホタルが発生したといわれていますが、最近ではその姿を見かけないままであります。

ホタルを



は成虫となります。市民に育ててもうのはこの幼虫の時期です。若齢の幼虫と飼育容器は市で提供しますが、飼育容器の中の幼虫は毎日一度ぐらいの割合でえさとなる貝類を与えて育ててもらいます。飼育開始後は市との連絡をとるため、月2回程度「ホタル通信」を提出してもらい、いろいろな相談を受けられる体制をとることになっています。また

協力が必要です。幅広い市民の皆さんとの定着をめざしていますので、ボランティアの方を募集して、「ホタルの飼育説明会」が去る7月27日に開かれ、会場の市立図書館視聴覚室では熱心な質疑がかわされました。ボランティアのみなさんの地域での活動が必要となっています。

8月10日現在でボランティアに応募くださった方は90名となっており、その中には越ヶ谷高校の生物地盤部も含まれています。ホタルの幼虫を市民自身が育てることで、ホタルへの愛着もいちだんと深くなります。このように自然界の生物は自然の大好きなサイクルの中である1つの役割を演じているのです。

ホタルがすめるかどうかということはその自然のサイクルがうまく回転しているかをみるとあります。いわば「ホタルが自然のパロメーター」になるわけです。ですから

ホタルを越谷市に放せば環境がどの程度のものであるかわかりますし、ホタルを含めた自然と人間のバランスのとれた環境保全だからです。

ホタルがすめるかどうかの確認をするために、越谷市は多くの環境に配慮したり、ふだん自然との接触を忘れがちな生活中で、自然と対話する機会にもなります。

また親子で飼育する場合など、家庭内での大きな話題となることでしょう。市民が飼育に力を貸してくれることは大きめ意味があるので、飼育してもらいうけボタルは成虫となります。市民に育ててもうのはこの幼虫の時期です。若齢の幼虫と飼育容器は市で提供しますが、飼育容器の中の幼虫は毎日一度ぐらいの割合でえさとなる貝類を与えて育ててもらいます。飼育開始後は市との連絡をとるため、月2回程度「ホタル通信」を提出してもらい、いろいろな相談を受けられる体制をとることになっています。また

協力が必要です。幅広い市民の皆さんとの定着をめざしていますので、ボランティアの方を募集して、「ホタルの飼育説明会」が去る7月27日に開かれ、会場の市立図書館視聴覚室では熱心な質疑がかわされました。ボランティアのみなさんの地域での活動が必要となっています。



は成虫となります。市民に育ててもうのはこの幼虫の時期です。若齢の幼虫と飼育容器は市で提供しますが、飼育容器の中の幼虫は毎日一度ぐらいの割合でえさとなる貝類を与えて育ててもらいます。飼育開始後は市との連絡をとるため、月2回程度「ホタル通信」を提出してもらい、いろいろな相談を受けられる体制をとることになっています。また

